

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
国語	- 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる資質・能力。 - 日常生活における人との関わりの中で、自分の思いや考えを伝え合う力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率63% - 前学年で学習した漢字や新出漢字の定着、活用することに課題がある。 - 主語、述語や助詞などを正確に使用して文章を書くことに課題がある。 - 読書の習慣が定着していないため、語彙力が乏しく、文章を読むことや、自分の考えを文章で表現することに課題がある。	- 授業や基礎・基本タイム、家庭学習で漢字の反復練習を行う。 - 自分の考えを書いたり、説明したりする機会を单元ごとに設ける。その際、定型文を提示したり、読む相手や書く目的を具体的に設定したりする。 - 言語活動の中に、他者の考えや成果物を読んだり聞いたりする活動を取り入れる。その活動を通して、構成や内容の良さを共有し、自分の思いや考えを広げられるようにする。 - 計画的、継続的に読書の時間を確保する。	
社会	- 地域や地理的環境、現代社会の仕組みや働きなどの社会生活についての理解。 - 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力。	- 地図を正確に読み取る能力や、区・日本など自分が住む土地についての知識、理解の定着に差がある。 - 社会に関する用語・人物などの基礎的・基本的な知識の定着に差がある。 - グラフや資料を読み取った上で、多面的に考えたり、背景と関連づけたりすることが難しい。	- 体験や見学などを積極的に取り入れ、学習の効果が上がるように実施の時期を適切に計画する。 - ICTを活用したり、複線型学習をしたりする中で、自ら課題を設定し、課題解決をできるようにする。また、まとめを自分の言葉で説明する時間を設ける。 - 社会に見られる課題の把握や、その解決	

			方法・関わり方について、グループ活動や ICT を活用しながら多角的な視点をもって考えられるようにする。	
--	--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
算数	- 基本的な四則計算を正確に行い、問題解決する力。 - 文章問題の条件を正確に読み取り、立式する力。 - 目的に応じて図や式、言葉を用いて考えを表現する力。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 65% - 四則計算の知識・技能の習得に個人差がある。 - 文章問題の条件や題意の読み取りに正確に読み取る力や立式する力に課題がある。 - 問題解決において既習事項や公式を活用して問題解決する力が十分ではない。 - 自分の考えを図や式、言葉で表現することに課題がある。	- 昼学習や授業の中で計算の反復練習や適用問題を行い、知識の定着を図る。 - 学年に応じて、具体物、図・表・数直線を活用し問題場면을視覚化してとらえさせる。 - 公式の意味や数量の関係を図や数直線などで正しく捉え、一人ひとりが問題解決する学習活動の時間を十分にとる。 - 自分の考えを図や式、言葉で理解した内容を説明する活動を取り入れる。	

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
理科	- 自然の事物・現象についての理解。 - 観察・実験などに関する技能。 - 主体的に問題解決しようとする態度。	- 観察・実験における問題解決の流れの定着が不十分である。 - 予想や仮説を基に解決の方法を発想、表現して問題解決する力が不足している。 - 実験から得られた結果やデータを考察に結び付ける力が不足している。	「問題→予想→計画→実験・観察→結果→考察→結論」の学習過程を意識して学習させる。（学習の流れの提示。学習過程を言語化しながら指導。） - 既習事項や生活経験を根拠として予想を立てさせる。予想を交流し、多様な考えに触れさせる。結果と考察を区別して記	

			録させる。考察の文型を示す。友達の考察と比較し、共通点や相違点を交流する活動を設定する。 ・ICTの活用や複線型学習で、自己決定の場を増やしたり、友達と交流したりしながら主体的に学習に取り組む習慣を身に付ける。	
--	--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
生活科	- 生活上必要な習慣や技能を身に付ける力。 - 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する力。 - 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度。	- 学習内容を自分自身や、自分自身の生活と結び付けて考える機会が少なかった。 - 良い気づきがあるにもかかわらず、表現の仕方が不十分である。 - 自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることはできても、感謝の気持ちをもち、豊かによりよくしようと行動しつづけることが難しい。	- 具体的な活動や体験をしたり、友達や地域の人々との関わりに重点をおいた活動を取り入れたりする。 - 生活科での気付きを児童の発言、記録カード、作品、写真などを用いて表現する。また、自分の行動や自分の生活と結び付けて振り返りを行い、気付きや思いを表現し合う活動や場を設定する。 - 一人ではできないことは、ペア学習やグループ学習を意識的に取り入れ繰り返し、感謝の気持ちをもてる場をつくる。	

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
音楽	・音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能。 ・曲や演奏の楽しさを見出しながら音楽を味わって聴く力。 ・音楽を愛好する心情と感性、親しむ態度。	・楽譜や音楽記号などへの親しみがあまりない。 ・周りの音をよく聴き、協働的に演奏することが難しい。 ・楽曲に対して、自分なりの思いや意図をもち、主体的に表現することが難しい。	・一人一台タブレットを活用し、自分のペースで学習ができるよう整える。 ・演奏表現の工夫を自分で考えたり共有したりする活動を取り入れる。 ・音楽記号の学習や階名唱は常時活動として継続的に行い、知識の定着を図る。	

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
図工	・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品に対して自分の見方や感じ方を深めたりすることができる能力。	・表現に偏りがあったり、表したいことがあっても表現できずにタブレットを使用し、まねをしたりする傾向が強い。それでも思うように表せないと諦めてしまい、意欲的に最後まで作品作りをすることが難しい。	・鑑賞する時間を通して、作品の表現の良さや面白さを感じとり、作る喜びを高める。 ・作品の大きさを比較的小さくし、やり直しがしやすくしたり、完成する実感を持たせたりする。 ・ゴールの形を導入のみならず、定期的に示し、作品への意欲を継続させるようにする。	

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
家庭	・日常生活に必要な基礎的な知識理解・技能。	・日常生活の中でよりよい生活を目指して自分にできる工夫を考えることが難しい	・課題が多い児童には個別対応を行い、知識・技能の習得に向け支援を行う。 ・自ら実践できる見通しをもてるよう、日常生活に応用できる課題の設定を行う。	

体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
	・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝えることができる能力	・ボール投げ、50m走が全国平均よりも上回っている学年が多い。 ・継続して運動を続ける児童が少ない。 ・体の動かしを知らず、思考しながら体を動かすことが難しい。 ・自分の課題を知らず、曖昧なまま活動している児童が多い。	・ICT教材を活用し、ペアやグループでの活動を通して自分の動きや課題を知る。 ・スモールステップで場を設定し、達成感を味合わせ、意欲や技能面を高めていく。 ・活動内容の見通しを持たせ、1時間のゴールイメージを明確に提示する。	

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
	・自分の考えや気持ちなどを伝える技能。 ・内容や伝え方について、相手意識を働かせながらやり取りしようとする姿勢。	・英語に対して苦手意識がある生徒が多いため、堂々と発表したり、会話したりすることができない。 ・英語が苦手な生徒が得意な生徒に日本語で答えを聞いてしまうことがある。	・ICT教材をさらに活用し、英語のリスニング、スピーキング力を楽しみながら向上できる授業を提供していく ・児童全員がNTやペアで積極的にコミュニケーションをとれるように話すことに重点を置いて授業を進めていく。	

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
	・自分の経験や価値観をもとに考え、道徳的課題を自分ごととしてとらえる力。 ・友達の考え方や感じ方を理解し、意見を比べる力。	・教材は抽象的な表現が多く、自分の体験と結びつけにくい。そのため、「自分だったら」と想像することが難しい。 ・自分の感情や考えを言語化する力の不足。	・発問や身近な題材を工夫し、児童自身の生活場面とつなげて考えさせる。 ・意見交流、共有した後で、「自分とどう違うか」「どこが共感できるか」という視点でもう一度自分の考えと向き合う時間をつくる。	

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
	・学級の課題を見出し、解決に向けた話し合い活動をする力。 ・自分の役割に責任をもって主体的に仕事や活動に取り組む力。	・役割意識や責任感をもって活動することができない児童がいる。 ・係によって、主体的に活動を進めていくことができる児童とできない児童がいる。 ・話し合い活動することに消極的な児童がいる。	・自分の考えをもち、話し合いに参加できるよう身近な話題を議題にし、話し合い活動の経験を増やしていく。 ・話し合いの方法を型で示し、見通しをもって適切に話し合いができるよう指導する。 ・自信をもって取り組めるよう、できたことを称賛する。 ・スモールステップで明確な到達目標を示す。	

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫	成果と課題
	・インタビュー、観察、資料、統計、地域資源などを使い分ける力などの多様な情報収集力。 ・課題設定→情報収集→整理、分析→まとめ→改善案→発信の探究学習サイクルの自走力。 ・友達の意見を取り入れ、よりよい提案や表現に仕上げる、協働的な創造力。	・情報収集方法に偏りがある。インタビュー、タブレットが多く、他教科での調べ方の学びが生かされていない。 ・課題設定が浅い。調べた後に新たな課題を生み出す力が弱く、解決への道筋が描けない児童がいる。 ・探究活動の流れが未定着である。学習サイクルが学年をまたいで連続して身についていない。	・問いづくり、比較整理、提案づくりの共通型を導入する。学年縦断の探究スキル・ルーブリックの整備をする。 ・地域連携、図書館活用、観察・実測、アンケート、資料読みを計画的に配置し、多様な情報収集体験を保障する。 ・共有アプリの活用、発表会、相互評価の仕組みを全学年で統一し、学びを循環させるために、協働的な学びの場を設計する。	